

にれんさんようもんしんようけいぎょうよう 二連三葉文心葉形杏葉

ぎょうよう 杏葉とは…

杏葉とは、馬の胸や尻の部分の革帯にぶら下げた馬具です。権力者が馬を飾り立てて力を誇示するために作られたもので、船原古墳では心葉形（ハート形）、花形、棘葉形（先の尖った葉っぱの形）といった様々な形のものがみつかっています。

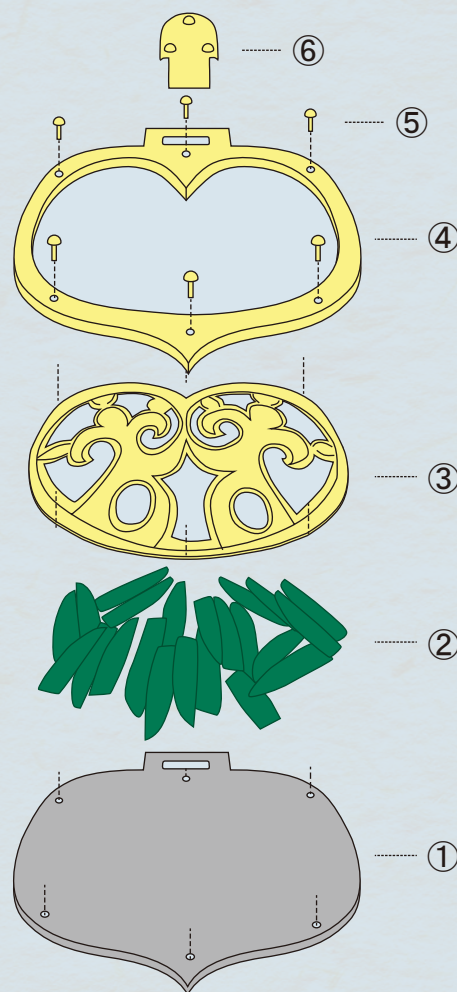


杏葉の取り付け位置

二連三葉文心葉形杏葉の基本情報

二連三葉文心葉形杏葉は①地板の鉄板と文様板の間に②タマムシの翅を敷き詰めて、さらにその上に③文様板と④縁金を重ねて⑤鉚で留めています。立聞（杏葉の上、突出して孔を開けている部分）には革帯に取り付けるための⑥金具が付いています。

文様板には、左右一対の三葉文（先が三つに分かれた葉っぱのような形をしているものをまとめて三葉文と呼んでいます）を彫っており、線で縁取りしてデザインを際立たせています。



二連三葉文心葉形杏葉の復元 CG

二連三葉文心葉形杏葉の構造の図解

二連三葉文心葉形杏葉の特徴

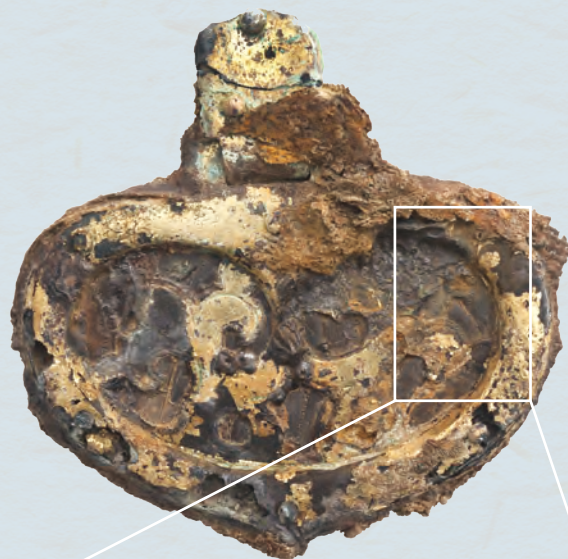
二連三葉文心葉形杏葉は、近年の調査によってタマムシの翅で装飾されていることがわかりました。使われている虫の翅は、縦方向の線状の隆起と細かな点刻の特徴などがタマムシの翅の特徴と一致します。

X線CTスキャナのデータを分析すると、タマムシの翅は20枚ほど使われているようです。しかも隙間なくタマムシの翅を敷くのではなく、文様板と重なって表から見えない部分は空間を開けていることがわかりました。

今は黒っぽくなってしまっていますが、かつては金銅板の透かしの部分から覗く玉虫色の輝きが見る人を魅了したことでしょう。

船原古墳と近い時代の玉虫装飾品は、奈良県ほうりゅうじ たまむしのずし法隆寺の玉虫厨子の他、同県しょうそういん正倉院や福岡県おきのしまさいしいせきの沖ノ島祭祀遺跡でも見つかっていますが、非常に数が少ない珍しいものです。また、玉虫装飾の馬具と断定できるのはこの二連三葉文心葉形杏葉が国内初です。

玉虫装飾馬具は、現在の韓国けいしゅう慶州市が新羅しちぎの首都であった時代の王陵級古墳で見つかっていて、当時の朝鮮半島では王などの地位にあった人物が持つことのできた希少な品物であったことがわかります。



船原古墳の二連三葉文心葉形杏葉とタマムシの翅部分の拡大



タマムシの翅の配置と文様との位置関係

古賀市立歴史資料館

〒811-3103 福岡県古賀市中央二丁目13-1
TEL 092-940-2683 FAX 092-944-6215

船原古墳最新情報のページのURL <https://www.city.koga.fukuoka.jp/cityhall/work/bunka/bunkazai/funabaru/>

令和3年3月発行